

コロナ整形 (その二)

首藤 静夫

新型コロナによる巣ごもりを機に歯のホワイトニングをした話を前々回書いた。もう一つ解決したいことがあった。

顔のいぼである。十年くらい前から気になりだした。右のこめかみのいぼが小豆大に成長した。まもなく、目袋の下の溝に沿って新たに小さないぼが出来、二つ三つと増えてきた。反対側の目袋の下にも一つ二つ。それが次第に黒ずんできた。

目袋自体は年齢とともに中の脂肪でふくらみ、袋が垂れてきた。その下に点々と黒いいぼでは歌舞伎の患者面だ。

美容整形が頭をかすめたが恥ずかしい。そこで時々お世話になる皮膚科をノックした。歯切れの良い美人女医でお気に入りだ。どう言われるだろうか、手術だろうか、費用は高いかなあ、安倍晋三君の十万円の残りで足りるだろうか。

美人女医に一通り状況を説明すると、

「では早速やりましょう。いぼは、どれとどれを取りますか」

「えっ、そんなに急に?」

女医のうしろにナースが、何やら白煙が上がる器を捧げ持っている。

「これは液体窒素です。患部に塗り、三四日で消えなければまた塗ります。数日は患部がひりひりしますよ」

あっという間に処置が終了、大きめの四つが処置された。会計が気になる。

(保険も効かないだろうし、何万円取られるだろうか)

「お待たせしました。お会計は千三十円です」

「えっ、全部で?」

経過は順調、いぼも分らないほどになった。調子に乗って小さな三つをやってもらった。七四〇円。こんなに簡単だったのか。

目立ついぼがなくなると、それまで気にならなかった小さなほくろが目立ってきた。そこでまた行った。

「先生、一等星、二等星が消えたら三等星のほくろが光り出しました」

「そういうものですよ」

「洗面器の液体窒素に顔を浸したらいつぺんに片づきますかね」

「まさか、あなた。顔中火ぶくれですよ。ああ、「フツ」。言っておきますが、いぼは取れますが、ほくろは取れません」

いい加減にせいという顔をしている。可愛くないなあ。